

武蔵野市第五期長期計画・調整計画市民会議  
(第3回)

議事録 (要旨)

日時：平成26年7月2日(水)  
場所：武蔵野市役所 811会議室

## 1. 開会（午後7時）

## 2. 前回会議録の確認

（委員による確認の後、議事録（要旨）について確定した。）

## 3. 議事

### （1）「緑・環境」分野について

（資料1「検討内容について」の概要を説明した。）

【A委員】 吉祥寺の通りを見ていると、確かに緑は多いと思います。武蔵境の南口も緑は多い。まちの中に木が多いということは特筆すべきです。五長の冊子を見ると、緑に関するものが11億円となっているのは、新規につくるための費用であって、剪定などメンテナンスにも費用がかかるだろうし、道路予算とかいろいろなところから緑に膨大なお金が出ているのだらうと思います。私自身はそれに否定的なのではなくて、そうしているから現在緑があって、このまちのブランドになっているんだらうなど考えていますが、緑は箱物と同じで、つくればつくるほど維持費がかかっていくわけです。気がついて、どの程度のお金がかかっているのか計算してみたら、相当なお金になっている可能性もあるので、頑張っているのか、これだけかかっていますけれども皆さんいいですよというアナウンスを市のほうとしてはすべきだらうなと思いました。

【B委員】 漠然と、武蔵野市は緑が多いというイメージでしたが、東京都の中ではこれぐらいの位置にあるんだということがわかって、勉強になりました。

一方で、緑をふやすことはいいことだとは思っても、どれぐらいふやしたらいいのか、実は余りよくわからない。緑被率も、武蔵野市はどこまでふやしていくのかビジョンが見えてきません。ふやした部分をどのように活用していくのかも大事なのではないのでしょうか。

私は、農業ふれあい公園というものがあることを初めて知りました。詳しいことはわかりませんが、最近では農業に興味を持つ若い人がたくさんいますし、身近なところで都市型農業体験ができるのはとてもいいなと思いました。

公園は、今も憩いの場として使われていますが、もっと気軽に、ふらっと来られる場でもいいと思います。健康器具ブームに乗って公園に健康器具があることでコミュニティが生まれるという記事を見たことがあります。場所の活用という意味ではすごく可能性があると思います。

【C委員】 資料を見て、緑被率が少しずつよくなっているのは、いい意味の驚きでした。大規模マンションをつくる時に、木を植えることが義務づけられた結果だと思います。

ヒートアイランド対策で気になるのは、共同住宅よりも、むしろ一戸建てです。最近では、一戸建てでも草取りを嫌がるせいか、土が全くない家が多く、雨水が全部下水に流れています。これは下水道流出率52%を40%にしようとするものの阻害要因になるのではないかと危惧しています。この問題を行政がコミットするとしたら、建築指導課の建築確認だと思います。建物を新築しても、塀が古ければ建築確認を通さないという行政指導がありますし、建蔽率、容積率に、緑被率を加えてはどうか。

戸建ての場合、駐車場にコンクリを打たずに、砂利にするだけでも下水流出率は減っていくと思いま

す。共同住宅には雨水貯留タンクの設置を求めるなど、1軒の建築ごとにコツコツ地道に対策を講じていくのが一番いいと思います。

【D委員】 東日本大震災以降、日本は地震対策に重きが置かれがちで、最近は温室効果ガス削減目標という言葉が聞かなくなりました。先日も、三鷹に雹が降るなど、近年まれに見る異常気象です。悠然と構えているときではありません。

暑い夏には、緑深い公園に足を踏み入れれば、清涼感を味わえます。緑で覆われた空間は、真夏の暑さを確実に和らげてくれますが、吉祥寺駅周辺は、武蔵境駅周辺と違って緑が少ないと私自身は思っています。樹木が植えられてはいても、枝葉は短く刈り取られています。市役所周辺の桜並木や阿佐ヶ谷駅のケヤキ並木のように、武蔵野市の玄関口でもある吉祥寺駅周辺も、もっと緑化を推進して、緑の武蔵野をアピールしていけたらと思います。

住宅街の緑が減少に向かうことは私も懸念しています。市の目標とする緑被率は平成39年に26%、長期目標として30%ということですが、緑を有する大きな家々が相続等で民間企業に売り出され、そこに3軒、4軒と小さな家が建つ現状では、住宅街における緑の保全是厳しくなります。電柱の地中化などが現実していくのであれば、その際に、住宅街の道路に樹木を入れて、緑の喪失を回避できないだろうかと思っています。

ただ、緑の保全には確かにお金がかかりますが、心のゆとりも必要です。かけがえのない共有財産であるという市民の認識が不可欠です。武蔵野市で環境学習の機会等を積極的に推し進めていただきたいと思っています。

【E委員】 民有地の緑は、保全を意識していないと、あっという間になくなっていきます。

農地も、相続の際に減っていくことが十分考えられます。農地を残すことは、防災上も有効です。農地の中に入って遊ぶことはできないにしても、露地物の栗が初夏に花咲き、収穫の季節が来ることを目で見るができるのは、子どもにとってもいい環境だと思います。農地の保全、民有地の緑というのは意識的に重点化していったほうがいいなと思います。

【F委員】 確かに武蔵野市は緑が多い。でも、緑はあるけれど、これは自然ではないんだよ、とも思ってしまうんです。かといって、今さら自然を取り戻すなんてなかなかできないし、私らのライフスタイルを変えるのも簡単にはできない。今の若い人たちは、緑よりはカーポートで、全部コンクリにして、雑草が生えないように砂利を敷いて除草剤をまいています。

私は、子どものころから武蔵野にいますが、保存樹木制度だとか大木・シンボルツリー2000計画を初めて知りました。これらの木を維持するための経費は誰が出しているのか。緑は経費がすごくかかるんです。桜みたいに、太くなって、急に枯れて、頭上にボコボコ落ちてくるような木を植えるよりは、もっと強い木を植えたほうがよっぽどいいです。緑被率は何のためか、武蔵野市は何で緑をふやしたいのかということを確認していかないと、民有地の緑は自発的には進んでいかないと思います。三鷹市の人見街道のケヤキも、樋に落ち葉が入って嫌だと言われて丸太ん棒のようになっています。結局、市民全体の共有になっていないのですね。

【G委員】 私は、それでもやはり緑が多いほうが、暮らしていく上では、いいまちなのではないかと思います。境山野緑地のような自然に近い緑はすばらしい。昔の雑木林を何とか保全しよう、自然な水

辺を取り戻そうという武蔵野市の取り組みが進んでいけばいいなと思います。

最近、市では「協働」という言葉を余り使わないようですが、境山野緑地保全では行政と協力し合っ  
て活動を進めている団体があります。クリーンむさしのを推進する会は、長年にわたってごみ減量に熱  
心に取り組んでいます。環境に優しいまちにしていくには、市民主体でありながらも、市が協働で取り  
組む形がいいのではないかと思います。

未使用の市有地は、いかにももったいない。少し工夫して整備すれば、子どもたちの遊び場あるいは  
原っぱみたいな形で使えるのではないのでしょうか。

【H委員】 今回配られた「武蔵野市新たなエネルギー活用検討委員会 報告書概要版」は、ちょっと  
不親切だと思いました。フォントの選び方やカラフルなのはいいのですが、目に痛い。本文も「BEM  
S」「EMS」といった用語が、パッと見ではわからない。これからのエネルギーを効率的に使おうと  
いう意欲は伝わってくるのですが、寄りつきにくい表現になってしまっているのが残念です。

武蔵野市は、家庭菜園を持たない人向けに、市民農園がありますが、抽選倍率が高くて、参加しよう  
にもなかなか参加できないという話を、コミセンでの野菜の講演会で聞きました。武蔵野市にせっかく  
いい制度があっても、結局どのくらい利用できているのか、倍率が一般市民に周知されていませんし、  
そもそもそういった制度があることを知らない人が多い。広報のいい手段があればと思います。フェイ  
スブックに「水の学校」の件も上がっていましたが、これからの情報提供の中で、武蔵野市のフェイス  
ブックに「いいね！」を押してくれる市民がふえれば、若い世代への周知は随分と改善されると期待し  
ています。

クリーンセンターで小型カセットコンロ爆発事故があり、新聞でも問題になりましたが、被害額ほど  
のくらいだったのか、この部分は強調してもいいかなと思いました。また、クリーンセンターの建設コ  
ストについても、市民にもう少し説明がなされていけばよかったのかもしれない。

【I委員】 緑については、私も余り問題意識がなかったのですが、住んでいて緑が多いまちだなとい  
う印象はあります。

まず、緑被率の問題です。地球温暖化の問題やエネルギー政策の問題と絡めて、実際に緑被率がどの  
くらいあれば都市として理想的なのか、最初の段階で明記していただくとわかりやすいと思いました。

また、「新たなエネルギー活用検討委員会 報告書概要版」の中に、スマートシティの概念が盛り込  
まれています。原発の問題も含めて、今後エネルギー政策、省エネ意識を、私たち市民一人ひとりが  
持っていく必要があります。エネルギーの問題、地球温暖化等々社会的な問題の中で、緑被率をどう設  
定をし、どういうまちを目指すのか、そこに政策理念的なテーマを持たせて包括的に提示していったほ  
うが、市民にはわかりやすいと思います。

ワークショップによってつくられた公園についての例が示されていましたが、緑の施策等にランニン  
グコストがかかるなら、第五期長期計画の冒頭に「市民の自発的・主体的な行動を促す支援」を挙げて  
いるとおり、市民の意識啓発や自発性の促進が政策的に重要な観点になります。イギリスには、コミュ  
ニティガーデンという考え方があります。どういう公園をつくっていくかというワークショップをやる  
だけではなくて、そこに市民がどうかかわって、公園を維持管理していくかというところまで持ってい  
くのです。参考に取り入れるのもおもしろいのではないかと思います。

市民の参加を市がどこまで支援促進できるのかは、政策全てに通底した問題です。市民参加という視  
点で掘り下げて、どう具体性を持たせるかという議論が必要なのかなと思いました。

【総合政策部長】 数値的なことでの質問に対して、答えられる範囲でお答えします。

まず、公園の維持管理は約3億円で、街路樹、植樹帯の管理等には、そのうちの1億3,000万ぐらいの費用がかかっています。

緑化を守るための方法では、マンションあるいは一定規模以上の戸建てでは緑被率を維持するような指導がなされています。

雨水貯留槽も、できるだけ入れていただき、費用を補助するという制度をとっています。

クリーンセンターでの小型ガスボンベによる爆発は、被害は生じておるのですが、保険に入っておりますので、改修費を直接市民の税金から出すことはしておりません。当時、チラシを全戸配布して注意喚起をいたしました。

【G委員】 先ほど緑のことだけお話しになった方の、環境についてのコメントも伺いたいです。

【A委員】 私は、ごみの分別についての説明がかなり弱いと思っています。何をどう分けていいのか、私が引っ越してきたときも全くわからなかったし、新しく来た人も多分わかっていない。

資源ごみとしてのプラスチックトレイは、洗えと書いてありますが、どこまで洗えばいいのかわかりません。プラスチックごみは、ちゃんと洗わないと再生できないので、相当洗わないといけないはずで。詳細なものにすると相当厚い本になってしまいますが、説明を徹底していかなければ、使えないプラスチックごみだけを集めることになってしまいます。

【D委員】 私の実家が所有するアパートは、近くの大学に通う若い人が中心で、入居直後は、やはりごみの分別問題でかなり戸惑っています。私は、詳しいごみの分別の方法を書いた市の冊子と、市政センターなどに置いてある危険物を入れる赤いポリ袋を一式お渡しして、「武蔵野は本当に厳しいから、ちゃんと分別しないと全部持って行ってくれないですよ」と注意するのですが、まず2回や3回できちんとできることはありません。回収する方も、どんなに隠して入れてもわかるようで、置いていかれてしまう。それを入居者のもとに戻して、「こんな状態になっちゃうから、本当にちゃんとやって」と教え込まないとできないのです。ただ、環境を考える上では私は大変重要なことだと思っています。ごみの有料化をしていない自治体もあると思うんですけども、これからも有料化を続けていくのはいいことだと思えます。

CO<sub>2</sub>削減のために、ネオンの消灯、商業ビル建設の際の太陽光発電、冷暖房の効率アップの資材の利用の義務化などを推し進めることができたらと思います。海外の大きな都市では、まちの中心部への車の乗り入れを規制したり、駐車場自体の供給量を制限したり、一方通行路や通行禁止区域を設けるなどして、すばらしい効果を上げているところもあります。私自身、不便を感じる部分はありますが、目先の利益や利便性の追求に走ると、今以上に大きなしっぺ返しが来ます。行政で、時には強引にでも環境政策に取り組んでいただくことを強くお願いします。

【F委員】 私は、ごみを回収する側ではないし、まるっきり捨てる側なのですが、もっとちゃんと情報が欲しいとも思います。プラスチックトレイをどこまで洗えばいいのかもそうだし、ペットボトルも、キャップやラベルを外していたら、「そんなことをしなくたっていいんだ」と言われたことがあります。私がやっているこの一手間は一体何なのかと思うし、ペットボトルとカバーは、別のところに

行くんだとしたら、やっぱり別々にしたほうがいいのかとか、いつも迷う。分厚い資料は困るのですが、どうせなら教えてもらったほうがいいです。焼却炉の能力は自治体によって全然違って、燃やせるんだか、燃やすんだか、言い方もくるくる変わって、混乱します。自分たちの頭の中で「これは燃やしちゃっていいんだよね」「いや、全部は燃やせないんじゃないの」という葛藤の連続で、やるなら徹底的に、武蔵野市はここまでやるんですと打ち出してやってくれていいと思っています。

お店で惣菜を買うときは、自分の皿を持って行って「これにのっけてくれ」と言いたいくらいです。そういう取り組みは、既にあるかもしれないけれども、これは市がではなく、商店街が推進してみたらおもしろいかもしれません。

【A委員】 ごみ分別は、分厚い本を各戸に配るぐらいのことをしないといけないと思うんです。ジーンパンやジャンパーのような、金属のチャックがついたものは、燃えるごみなのか、燃えないごみなのか、そういう判断もできないのが現状です。

【F委員】 何でもかんでも紙で配るのはどうなのかなと思っていて、できればデータで取れるようにしてもらいたい。長計の冊子も、家に何冊もあるので、市の方には、欲しければ自分で買うから有料制にしてと言っています。

【H委員】 武蔵野市のホームページには、燃えるごみ、燃えないごみの例示があいうえお順に並んでいて、検索ができます。私も、捨てるときに、燃えるのか燃えないのか、資源なのかよくわからないものがあって、たしかそういうのをやっている自治体があると思って、武蔵野市のホームページに行ったら検索できました。「なるほど、これは燃やしていいのか」とわかりましたので、よかったです。ありがとうございました。

ただ、牛乳などの紙パックは拠点回収が原則で、古紙回収ではないといったことまでわかっていないと、せっかく高値でリサイクルできるモノが単なる古紙回収のほうに入ってしまったら、効率が悪いし、回収先で分別しないといけないことになります。レシートの感熱紙やカーボン紙がだめだというのは知っていましたが、新たにアイロン紙も、まぜられると紙がだめになるから、入れないように気をつけてくださいとありました。ごみはいろいろふえると思いますが、わかりやすい形で情報を共有できればいいなと思っています。

【C委員】 市は、主に変わったことがあったときに市報で公知しますね。ごみは特に、何も変わってなくても、市報で時々公知したら、市の労力もコストも、長い目で見れば減っていくと思います。14万人の市民の大半は真面目で、市が決めたとおりにやろうとします。ノウハウ、知識を授けてあげて、なるべくそこから外れないようにしてもらおうことが、ひいては市全体のコストダウンになるのではないのでしょうか。

【E委員】 外環道で、武蔵野市の地下水は影響を受けないか、心配をしています。井の頭公園の水位が下がってしまうのではないかととも言われていますし、地下水を使っている武蔵野市民としては気になる場所です。

武蔵野市には、子どもが基地でもつくれるような公園はないのでしょうか。梅ヶ丘には、土と木と空き家があるだけで、指導員がいて、子どもが何をしてもいい公園があります。

公有地を活用する際も、芝生というよりは、そのままの空き地を開放してほしいと思います。

【総合政策部長】 武蔵野市にもプレーパークむさしの冒険遊び場があります。

## (2)「文化・市民生活」分野について

【A委員】 市民活動を盛り立てていくには、どんな組織体にも構成員のタレントとかの問題があります。それを保持し続けるには、外から人を吸収する以外に方法はない。市民フォーラムも、うまくいかせるためには、市民活動の人がいろいろいて、ちゃんと考えられるという基盤が前提で存在しているのですよね。私のような、市民活動にも全然携わっていないし、何も考えない人がふえると、長計の冊子に幾ら自主的な活動を促すと書いたところで、活動そのものが先細りになってしまいます。配られた資料には市民活動が紹介されていますが、私はそれさえも知らなかった。何がどこでどう行われているのか誰も知らない。市は、予算を使ってもいいので、市民活動に参加しましょうと呼びかけていくべきではないかと思いました。

【C委員】 前回、健康・福祉のテーマで、どんな呼びかけをしても出てこない人は出てこないというご意見がありました。私もどちらかというところで、出てこない人は放っておけばいいじゃないかというほうに近いですが、防災のことだけは、そのスタンスは非常にまずいと思います。

今なら防災をテーマにしたら、出にくい、出たくない人も、出てきやすくなるのではないのでしょうか。平凡ですが、AEDの使い方の訓練とか、地震体験車みたいなのを呼んで来て乗ってもらう。備蓄倉庫見学会というのもいいのではないのでしょうか。私が個人的に関心があるのは、市の防災用の備蓄物資がどこにあるのかです。いざ直下地震が来たときには、市の職員だけでやれるのかという懸念を私はいつも持っています。

実はきょう、武蔵野がかつて全戸配付した非常用持出袋を探し出してきました。缶詰の製造日を見たら、四半世紀前なんです。更新していなかった。NHKで、東日本大震災の体験談をやっていて、震災時、町で配布された非常用持出袋に緊急用の食料などを入れて避難所である体育館に行ったところ、非常用持出袋を持ってきたのは自分だけだったという話をなさっていた。その女性は、年1回、防災の日には必ず中身を更新しているとのことで、私も早速電池などを更新しました。全戸配布というありがたみを感じませんので、イベントに出てきた人に配るといったやり方がいいのではないかと思います。

【H委員】 市民生活ではコミュニティの話をしたかったのですが、防災の方が個人的に疑問に思ったのでお話をさせていただこうと思います。

まず、東日本大震災の後に、吉祥寺東町地域は、東京都から5万円支援をさせていただいて、東部防災会ができたんですが、それがどうなったのか、地域のほうには伝わって来ていません。私はコミセンの活動をしていたので、本宿小や第三中学校にある食料庫や非常用電話、防災トイレなどの見学する機会があり、防災についての知識を更新することができました。ただ、問題はそれが地域でなかなか共有できていないことです。私はコミュニティ活動にかかわっているからこそわかったのであって、かかわってなければ、よくわからない。どうやって情報を手に入れればいいのかわからないものもあります。

東部防災会は、インターネットのページを持っていないらしく、検索しても出てきません。そろそろ

やるかもしれないというのは、掲示板を見に行かないとわからない。いつ更新されるのかもわからない。魅力的なイベントにするのと同時に、その情報を共有できる体制づくりがあればと思っています。フェイスブックをやっただけであれば、「いいね！」をして、夜寝る前ぐらいにチェックをして、行けるものなら行こうかなと思うところですが、そういったところでのICT化はまだ難しいのかもしれないと思っています。

【B委員】 仕事柄、地域と防災のことについてかかわることがあり、課題にあがったことがありました。

まず、地域防災に参加する人がほとんどいないという問題です。来るのは同じような顔ぶれで、基本的に若者がいないのが現状です。私は杉並で仕事をしていますが、地域の人たちと一緒に、防災の関心を高めるためにウォークラリーを催しました。10人ぐらいで班をつくって、どこに街頭消火器があるのか、災害時にはどう逃げたらいいのか、地図を頼りに行きどまりをチェックしながら歩いていきます。学校が広域避難場所になっているところが多いと思うんですけども、近くに火事が起こりやすいところがあったりして、単純にそこに行けばいいのかというと、そういうわけにはいかない。では、どこに行ったらいいのかということも歩きながら考えるという催しです。お子様連れのお母さんたちも参加しやすいように、マスコットキャラクターに来てもらったり、AED体験やロープワーク、担架訓練などの体験型のイベントも用意したりしました。その際、神戸のコミュニティの実践も参考にさせていただきました。神戸では、消火器の使い方をただ単純に訓練するのではなく、ストラックアウトという9つの的にボールを当てるという楽しみとともに使い方を学んでいくとか、担架でどれだけ揺らさずに早く運べるかということ子どもたちと一緒にやっているようです。

楽しく防災というテーマに、子どもだけでなく、楽しいイベントとして若い方々にも参加してもらおう。防災しようという思いは大事なんですけれども、声高に叫んでいてもやはり重いし、それこそ「どんなことをしなきゃいけないの」と義務感が先に入って身構えてしまうので、楽しく参加できるイベントづくりができるといいのかなと思っています。

市民活動では、やりたいという市民が来るだけでなく、やりたいと思わない方が、ふらっと参加して、いつの間にかやろうと思っちゃったという働きかけが大事です。そのための仕掛けづくりとして、武蔵野プレイスはすごく可能性を持っていると思います。ただ、今の武蔵野プレイスのやり方だと、市民活動ありきで、ハードルが高い。ハードルを低くして、市民活動ではない気軽さを見せつつも、実はいつの間にか結果的に市民活動につながっていたという試みがいいのかなと思います。参加者も、時間がないうちで来るとなると利益を求めます。災害備蓄品がもらえるとなれば、「何か得したな。いつの間にか知識も得た。よくわからないけど市民活動ってこんなものなのかな」みたいな入り口になるきっかけになるといいと思います。ふらっと、自然といつの間にかやっているというのは、言葉でいうほど簡単ではないですが、そうしたアイデアがこれから必要とされると思います。また、そのためにも来た人たち相互を結びつける働きかけがもっと増えるといいのではないかと、いう気もしています。

【I委員】 まず、外国人住民の人口推移を見ると、武蔵野市だけでも毎月何十人単位でふえています。東京都全体でも、1年間で1万人ふえています。2020年のオリンピックを契機に、外国人の労働者の在留資格が緩和されれば、今後外国人住民数は間違いなくふえていきます。

1995年の阪神・淡路大震災では、外国人住民の多くが被災し、亡くなりました。このときに初めて、災害時は言語文化の異なる人たちが取り残される、その状況にどう対応していったらいいのかという問



題意識が出てきたわけです。

2004年の中越沖地震では、避難所に250人の外国人住民が避難していました。その中でも、外国人が日本社会の中で孤立化していく状況が見えてきていました。そのエピソードの1つとして、中国人留学生在が、避難所がわからず、ふだん利用していた市立図書館に数名で逃げ込んだということがありました。中国人留学生同士で固まって、中国語で不安と恐怖を話していたところ、館長さんに「日本のマナーを守って静かに」と注意された。日本語が十分でない留学生たちは、これを「外国人は出ていけ」と言われたと誤解してしまい、大きな問題に発展したということがありました。

2011年の東日本大震災では、仙台市の国際交流協会が、災害多言語支援センターを設置するという協定を市と結んでいました。仙台市の国際交流協会は、震災直後、職員が災害多言語支援センターを即立ち上げて、市との連携の中で外国人対応を行っています。東日本大震災で多くの外国人が出国しましたが、日常的に地域の中で活動していた留学生は残って、多言語支援の担い手となりました。留学生を災害時に担い手として育成していくという事業も行われていたのです。3月11日に災害が起こって、3日目ぐらいから多言語支援センターが機能しています。留学生たちは、通訳として避難所を回りました。外国人住民は、要支援者、要援護者であると同時に、担い手になり得るのです。今後多言語、多文化化していく社会の中で、外国人住民をどう位置づけていくのか、私は今こそ政策の中に求められるのではないかなと思っています。

第五期長期計画の38ページに「本市は平和に対する強い願いを持ち続け現在の豊かな文化の基盤を築いてきた」とあり、(3)「平和施策の推進」が基本施策として掲げられています。これは自治体の国際化政策だと思いますが、武蔵野市の国際化政策は表面には全く出てきていません。第三次計画のときに盛り込まれた平和政策は、1986年4月に出された平和問題懇談会の提言書によるもので、武蔵野市の国際化政策は、ここから全く進展していないのです。多文化共生政策は、災害時対応も含め、柱としてきちんと立てていくべきだと考えています。

【D委員】 私は、文化面について考えました。私は吉祥寺に住んでいるので、吉祥寺の遍歴を見てきました。吉祥寺は変貌が進んで、何が武蔵野市の文化なのかがとても曖昧になっている気がします。

「武蔵野市産業振興計画 概要版」の3ページ「基本理念・目標」を読んでも、よいところ取りのてんこ盛りで、漠然としています。どんな文化都市を目指すのか、具体的な方向性は示されず、どういう文化を目指していきたいのかの全容が全く見えません。サイクルの大変短い、使い捨ての商品を追いかける生活の中では、日本の長い歴史の中で育んできた文化に匹敵するものが生まれてきません。

今や吉祥寺はアニメのまち。コスプレのパレードなども行われるようなありさまで、それが文化の熟成と称されることを私は大変寂しく思います。アニメは制約がなく、総括的には性的な題材ですとか暴力なども含まれます。それが吉祥寺の文化として位置づけられることに私は大変違和感を覚えます。

先日、私は初めて吉祥寺美術館へ足を運んでみました。一地方自治体の運営する美術館に、実は期待するところがなく、行ったことがなかったのです。拡充などについては賛同はしませんけれども、狭い館内は、空間の使い方や展示方法など改善すべき点はありますが、メジャーな美術館が扱わないような作品を、鋭い鑑識眼を持ってすくい上げて扱っていくのも悪くないという感想を持ちました。まだ名もない、才能のある若手アーティストが、才能を開花させる場所づくりとして美術館を活用するなどしたらいいのではないのでしょうか。

最後に、吉祥寺は駅周辺だけでもお寺が少なくとも5軒ぐらいあります。市やNPOがお寺と協働して、お坊さんの講話ですとか写経などの文化や、歴史の浸透を図れるとよいと思います。私は海外に住

んでいたことがあるのですが、街なかの公園で、管弦楽などの野外コンサートがよく行われていて、道行く人が歩みをとめたり、芝生に腰をかけて音楽に聞き入る姿に、よき文化の断片を見たような気がしたものです。吉祥寺のバスロータリーの一画にあるマナーポイント跡ですとか、放置自転車が撤去されたヨドバシカメラと西友の歩道を、土・日の朝市に活用したり、ノミの市等でまちの魅力を高めて市民文化の向上につなげていけたらいいのではないかと思います。

**【E委員】** 基本施策の「互いに尊重し認め合う平和な社会」についてですが、一人ひとりが尊重される社会に、障害を持った方の視点がありません。障害を持った方は、この市民会議にも参加していないですし、そういった方を呼び込む努力が必要だと思えます。

先日、保育園増やし隊から議会に陳情が出されましたが、入所基準の話で、保育園は働く人たちだけでなく、障害を持っている親も必要なんだという場面がありました。障害を持っている人も働く人も、みんな入れるぐらい保育園をふやしたいのですが、一緒に活動するには、努力をして声を拾いに行かなければならなかったし、そういう声はなかなか上がってこないんだなと思いました。こういった会議にも参加してもらえるように、努力して声を拾い上げていくことをお願いします。

産業振興では、小さな商店が太刀打ちできないくらい、駅前にはチェーン店ばかりになりました。産業振興の資料の中にもそれが問題意識としてありますが、かなり重点的にやっていく必要があります。住宅街のちょっとした飲食店や八百屋さん、高齢化する社会には必要です。今はネットスーパーで買い物ができるけど、人口が減れば、サービスは引き揚げられてしまう可能性もあります。ネットスーパーで買うのと、近所に足を運んで買うのとでは、買い物の喜びとしての効果が違うという研究結果も出ています。住宅街から歩いていけるところにある小さな商店を守っていくのは必要だと思いました。

**【G委員】** コミュニティや市民活動の課題は、大ざっぱに言って、つなぐ課題と協働の課題だろうと思っています。

コミュニティは、市に転入したとき、つなぐ1つのチャンスだと思っています。地域に暮らしている人同士をつなぐには、コーディネートが必要になります。行政の人と地域の人が協力してやればいいのですが、企画をしても、いつも同じような人が出てくるのが現実だとすれば、そうでない人にどう伝え、どうアプローチしていくのが必要になります。それがなかなか難しいから、かかわる人が固定している状況が生まれているんだと思います。放っておけばどうにかなるものではありません。

ごみの話も、コミセンに月に1回でも市の人が駐在して、いろいろな話を聞いたり、しかるべき場所につなぐ役割を担っていただけるといい。今、月に1回のコミセン親子ひろばには市の方が来てくれます。

防災も、どうつないでいくのが課題です。自助・共助・公助と言われますが、大きいのは共助の部分です。境南町では自主防災の組織があります。防災懇談会という別の組織も地域にあって、今度防災訓練をやりませんが、五丁目まであるうちの各丁目に、災害があったときに集まる場所をつくりたい。コミセンは地域支え合いステーションとして機能することが検討されています。かかわりのできていない多数の人をつなぐ役割の人がふえていけば、まちの中のつながりもできていきます。

今、これからの地域コミュニティ検討委員会が、地域フォーラムをつくってはどうかという提案をされていますが、地域フォーラムをつくれれば人がつながるというものではありません。人をつなぐのはすごく手間暇のかかる仕事です。会議で集まったから人がつながるのではなく、その逆で、手間暇かけてつながっているから会議が生きていくんです。そういう手間暇かけるところを、私たちと市の方たちと協

力して担っていく必要がある。コミュニティも地域も、一朝一夕にどうこうなるものではなく、日常的に、少しずつしかつくることはできないんです。

外国人も、障害のある人も、例えば防災訓練とかに来てもらうことで、この人たちは被災したときにどういう困難があるかをみんなも知ることができます。

【F委員】 コミュニティ構想に書いてある「コミュニティ」という言葉には、最低でも2つ意味があります。1つは、一人ひとりがつながっていくみたいなコミュニティ、もう1つは、政策提言というか市民自治です。一人ひとり、興味のあるところも違うし、ふだんからかかわっている部分も違う。そういう一人ひとりの力を生かすには、1回で終わらせるのではなくて、つなげていくことが大切だと思います。

長期計画に書いてあるのは、人とのつながりというよりは、都市基盤の計画や文教計画のような政策提言ばかりです。武蔵野市は文化レベルが高いとか、知識人が多いとかいう話がありますが、果たしてそうか、すごく疑問です。確かに、いろんなことを知っている方がいらっしゃるけれども、こういう場にかかわっている方はほとんどいない。もしくは策定委員会に学識経験者として呼ばれて、大くくりの意見は言うけれども、ご自身が武蔵野市で住まわれてどう感じていらっしゃるのかという意見はそれほど出てこない。だから具体性のない話ばかりになってしまうんです。

長期計画では、市民活動の部分に、市民活動の最たるものである市議会について何も書いていません。もちろん、市長がつくるもので、市議会の議決が必要だという部分で書きにくいのかもかもしれません。でも、私らがここで話したことが、議会で本当に具体的に話されているのかは疑問です。傍聴にも行きますが、技術的なことや違う次元の話がされている。市長のタウンミーティングのようなことを議会がしてくれたっていいわけです。議員さんに個別に話を持っていくのは、つながりの強い方だけで、本当に声を上げたい人はまるきり別のところにいます。これは議会批判ではないですよ。でも、この中に、私たち市民にとっての市議会はこうあるべきだという意見が、本当はあってもよかったのではないかな。私たちが行政に意見を言う公の場は幾らでもあります。でも、一番の代表格といたら市議会ですよ。

いろんな意見を言った市民が、責任を持って、主体的にかかわっていく。結局その繰り返しでしかない。私たちみたいな市民がしゃべっていく中で、結果的に議決権のある代表者として出ていくのが本来の市議会だと思うし、本当は一人ひとりがいろんな政策提言をして、それが実現していくからこそ、こういう長期計画の意味がある。

これまで、行政の方と敵対する場面もありましたが、本音で話し合えばわかり合えること、理想は一致するということは幾らでもあります。「市の職員は市長の補助職員だから」と言った人がいましたが、私はそうは思いません。パートナーシップだと思うんです。市民は、法律のことは余り明るくない。でも、提言は、私たち一人ひとりがしていくべきだ。その中で、理想が一致したら、この部分は市民がやるよというふうにつながると思います。仕掛けも大事だけれども、1回だけポツと来て、おしまいにならないで、いろんな生活をしていく中で、困っていることや意見をどう言えるか、それを具体的にどう提言していくかです。

最後に1点だけ。私は、休んでいる市有地の活用を言いたくてしようがなかったんです。子どもがいろんなスポーツにかかわっていても、そういうスポーツをする場が武蔵野市は全然ないんです。ラグビーのような、グラウンドを使うスポーツは余りできなくて、場所の取り合いになっています。新しくできた千川小や大野田小学校も、市民向けに部屋を貸すことになっていますが、余り貸されていない実態があると思うんです。何のための「市民に開かれた施設」か。そもそものコンセプトは一体どこへ

行ってしまったのか。今あるものを工夫して、市民の趣味とか生涯学習に使いやすい形で、積極的に活用していただきたいです。

【I委員】 基本施策の6「都市・国際交流の推進」ですが、国内の都市交流と国際交流の推進、この2つの政策目的は全く違います。文脈的に一括で読むことはできませんので、見直しをしていただきたい。

自治体行政には、失礼ながら外国人住民に対する施策立案推進の経験値が少ないんです。武蔵野市には、1989年に設立された武蔵野市国際交流協会があり、専門性の高い職員を抱え、活動は全国的にも有名です。市民主体で事業をつくっていますし、外国人が主体的に事業を企画立案、実施をしています。自治体では、職員の異動があるたびに、一から勉強し直して、政策実施の経験ノウハウが積み上がりません。グローバル化に対応できる政策を実施していくには、推進組織としての国際交流協会の強化も、ぜひ進めていただきたいと思います。

【B委員】 つなぐ役割の人が大事だと思いますし、日ごろのかかわり、つき合い方は非常に重要です。私は、武蔵野市に越してきて、いろいろな講座を受けるのですが、2時間ほどの講座が終われば、そのまま解散です。せっかく同じ興味を持って集まった人たちですから、横のつながりを大事にするものがあるといいと思います。例えば、映画の上映会の後にちょっと話し合う場を設けるとか、美術館では作品について話し合える場があるとか、参加者同士がつながるスペースがあるといいなと思います。また、それだけだとただのスペースなので、そのスペースの中で横のつながりをファシリテートできる人がいるといいのかなと思っています。ファシリテートする人は、たとえば市民から公募にしたり、そうした人を育成するプログラムを作ってシンクタンク的に運営したりすることもできたら、もっと市民同士の協働も促進できるのではないかと思います。

【H委員】 「季刊むさしの 夏号」で鷹赤兒さんが武蔵野市に苦言を呈しています。「以前、広い場所で舞台稽古をしたくて、体育施設を借りたとき、使用目的と合わないという理由で使用できなかったこともあったから、できれば柔軟に対応してくれるとうれしい」、この主張はごもっともですし、私も、コミセンの運営側において、柔軟対処の限界を感じていました。例えば、消防用にあけてあるスペースを、障害のある方の駐車場にしていたのですが、重たい楽器を運ぶために使いたいという申し出に、窓口の人によって使用の許可・不許可が分かれるということで問題になりました。施設の使い勝手をよくするには、わかりやすく使いやすいルールが必要です。

また、吉祥寺のほうでは、杉並や練馬の方が、使用料の安い武蔵野市の施設を使っているのを目にすることもあり、税金の使い方について首をひねりたくなることもあります。市民の文化事業のようでありながらビジネスとおぼしき集まりや、市民同士の文化交流の場とは思えない活動にコミセンが使われることもある。柔軟な使い方と同時に、市民が納得できる使い方をしていかないと、コミセンは使い勝手が悪いという評判を得てしまう。このあたりを詰めることができればと思っています。

【G委員】 武蔵野市には、プレイスをはじめ、総合体育館、市民文化会館、公会堂など、市内に1つしかない文化・スポーツ施設があります。これをつなぐムーブバスがあれば、境の人は市の中心部に、緑町あたりの人はプレイスにアクセスしやすくなります。これは昔、採算が合わなくて路線バスが廃止になったと聞いておりますが、そこを何とか手だてを講じられないものでしょうか。

また、最近はどここの事業所も精神的にしんどくなってくる人がふえています。役所でも、学校でも、一般企業でもそうですが、一定規模以上のところは、精神的な部分に関する健診をしていきたいと思いますという国の施策が出ています。でも、小さいところには、なかなか手が届きません。武蔵野には小さい事業所がたくさんあります。そういう人たちの精神的な健診とかケアを位置づけられないでしょうか。

国際交流協会は境にあります。国際交流の拠点は武蔵野市に境だけです。外国人が多く住む境を、外国人と地域の人たちの交流のモデル地域として進めていくといいと思います。

**【総合政策部長】** 我々も重く受けとめなければいけない話が大分出てまいりました。ただ、幾つかのご提案の中には、すでに実行しているものもありますが、それらが周知されていないこと、また、全面展開できていないところが大きな課題だと思います。最後の報告書をまとめる段階で、そこをさらに拡充していくご提案もいただければと思っています。

#### 4. その他

##### (1) 次回について

**【伊藤企画調整課長】** 次回は、7月17日の木曜日で、テーマは、都市基盤と行・財政です。ありがとうございました。

閉会（午後9時）